

ARCUS

Artist In Residence - IBARAKI

現在のアート・芸術文化を守谷から。

- 問合せ先 アーカススタジオ (もりや学びの里内)
日・月曜日休館 ☎ 46-2600 (10:00 ~ 18:00)
✉ arcus@arcus-project.com
- ◎ 詳細な情報はアーカスプロジェクトで検索!

大井沢小学校歌から世界へ

世界には「国際展」と呼ばれる展覧会があります。有名なヴェネツィア・ビエンナーレは、2年に1度の開催で、「アートのオリンピック」とも例えられ、最も注目される芸術の祭典です。今年もこの権威ある国際展が5月に開幕し、アーカスプロジェクト2010年度招へいのソニン・アンがシンガポール代表に選ばれました。

ソニンは、もりや学びの里に滞在中、発見した校歌をモチーフに、音楽を介した映像作品を制作しました。旧大井沢

小学校(現もりや学びの里)に残る、歌われなくなった旧校歌の書を見つけたソニンは、卒業生の協力を得て、彼らが母校の旧校歌を思い出し歌う様子を映像に収めます。当時まだ駆け出しのアーティストだったソニンは、守谷市民との協働で本作品を完成させ、アーティストとして生きることを決意したと聞きます。この作品がシンガポール美術館に所蔵された後も、彼は国内外で活躍し、今回国際展に出展するまでに至りました。イタリアは遠いな、という方でも、8月1日(日)から愛知県で開催される「あいちトリエンナーレ2019」にソニンの参加が決定しました。トリエンナーレは3年に1度の芸術祭です。ぜひこの夏、ソニンの作品に出会ってみてはいかがでしょうか。

ディレクター小澤慶介コラム
「キュレーターになるまで」
(中編)

大学でフランス文学を学んだあと、1年くらいアルバイトをして、僕はロンドン大学ゴールドスミスカレッジの大学院に行くことになりました。その学校は、新しい学問をどんどん取り入れて、当時の政治・文化的な状況を捉えようとしてい

ました。伝統を重んじる学校であれば、イギリスという国を王様や貴族たちが築いてきた階級を重んじる国と捉えるのですが、僕が行った学校では、イギリスを、イギリス人とともにアフリカやインド、中国からの移民がたくさんいて、文化や言語、習慣が入り混じりながら変化している国と捉えるのです。このため、さまざまな価値観がぶつかり合い、新たな価値観が生まれるという社会的な状況を考える学問が盛んでした。同時に、そうした時代を表すアートも生み出し、活発に議論が交わされていたのです。

1990年代の後半、のちにヤング・ブリティッシュ・アーティストといわれる若い世代のアーティストたちが世界のアートシーンに打って出てゆくときでした。30代の若き芸術家たちが、イギリスの古い伝統を打ち破って、尖った作品を次から次へと生み出していったのです。そうした時代と社会の波をかぶった僕は、本を読み、ライブに行き、演劇を見たりしながらも、目の前に現れるアートを吸収しようとしていたのかもしれません。そして、そのときは、まだキュレーターになるなんて少しも思っていなかったのです。(つづく)



moriya photo news

大事にしたい、きれいな守谷駅

守谷市ポイ捨て等防止に関する条例施行11周年記念キャンペーン(5月19日)



守谷駅に150人ほどのボランティアが集まり、駅周辺のごみ拾いを行いました。かつてはポイ捨てが目立ったという駅前も、「守谷駅前クリーンズ」をはじめとする有志の皆さんの手で、きれいな姿を保っています。いばラッキーも駆けつけ、参加した皆さんを応援していました。

改元におめでたいひょうたんを

ひょうたん寄贈(5月15日)



市内に住む倉持晃治さんが改元の記念に寄贈してくれたのは、大人の腰ほどの高さがあるひょうたん。守谷駅前で開催された、もりやクリスマスファンタジーでは、ひょうたんランタンが飾られました。これほどの大きさは、皆さん驚かれるのではないのでしょうか。なんと、半年ほどで種からここまで大きくなるそうです。